

読書のすすめ

その5

H 31 4 / 16

新任者紹介④

佐藤 辰郎先生（1年8組副担任・理科）



『動的平衡』福岡伸一（木楽舎）

「体調や肌の調子が悪いのには何か不足しているからだ。だからそれを補給しなければならぬ」と私たちがはしばしばこのように欠乏の強迫観念にとらわれがちです。肌のハリを保つためにはコラーゲンを摂取し、関節が痛ければコンドロイチンを・・・など。こうした行為が

いかに無意味であるかを、「生命現象とは何か」という本質的な問いを通して示しています。これ以外にも様々なトピックを扱っているので「生命とは何か」という問いに対する自分なりの答えを見つけてみて下さい。



神代 純先生（農場長・農業）

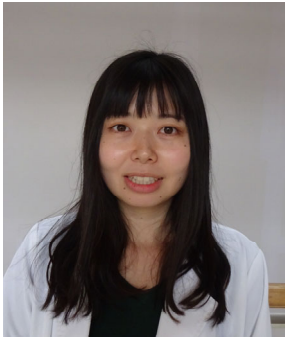


『夏美のホタル』森沢 明夫（KADOKAWA）

田舎が好きで、バイクが好きで、夏休みが大好きな私が、書店で表紙を見て、何気なく手に取ったことから読み始めた本です。詳細には触れませんが、私はこの本の描写や物語に、不思議な魅力を感じました。高校生の皆さんにも、おすすめしたいお話です。（ドラマにもなった様ですが、そちらはまだ観ていません…）



弓野 希美先生（養護教諭）



『もものかんづめ』さくらももこ（集英社）

中学生の頃に初めてこの本を手に取り、笑いながらあつという間に読み終えたエッセイ集です。昨年さくらももこさんが亡くなり、久しぶりにもう一度読んでみようと思いましたが、少しくだらないなと思いつつも、おもしろくて思わず笑ってしまうお話がたくさんあります。さくらももこさんは、やはり『ちびまるこちゃん』のような方だったのだなとしみじみ感じました。何も考えたくない時や気持ちをリフレッシュさせたい時に読むと、心が軽くなるかもしれません。



阿部 雄大先生（理科）



『羊と鋼の森』宮下奈都（文藝春秋）

この作品はピアノ調律師である主人公が、職場の人たちや依頼人など周りの人々との関わりを経て、一人前の調律師を目指す、という物語です。主人公のひととの関わり方、仕事への妥協の無さは見習わなければ、と私自身参考にしています。ピアノ調律師という、あまり馴染みの無い世界に触れられるのも魅力の一つです。



さらに、主人公を取り巻く世界、ピアノが奏でる音色を表現するために選ばれた言葉、それらの言葉によって描かれる文章は『羊と鋼の森』という書名を完璧に表すような、芸術的美しさを感じます。

※先生方の紹介が続いていますが、「キミ本大賞」や「本屋大賞」の本など図書館内には、おすすめの本が揃っています！ 今月は何冊読んだ？